

●遊びを通して心の平和を取り戻す……ボランティア講習会開催

日本ユニセフ協会災害対策岩手事務所と岩手県立大学(岩手郡滝沢村)は、避難所で暮らす子どもたちと保護者の心のケアにが支援に取り組んでおり、学生ボランティア・ユニセフボランティアを対象にした「心のケア学習会」がアイーナ県立大キャンパスで4月4日に開催されました。

日本プレイセラピー協会の湯野貴子代表と本田涼子理事から、「遊びを通した子どもの心のケア」などを学びました。子どもが怖い体験をしたあとの「赤ちゃんがえり、指しゃぶり、赤ちゃん言葉、しがみつき」などのわがままな行動をとることは自然なことで、遊びを通して気持ちを表現することがケアにつながるということです。

ユニセフハイチ事務所井本直歩子教育担当は「親も子どもも疲労がたまっている。避難所のニーズも日々変わっているがニーズのある場所に対応していきたい」と決意を話されました。

当日の参加者たちは、ボランティア登録し、その後、各地の被災地・避難所で活動しています。

4月17日、ボランティアの鈴木通子さんは、ご主人も一緒にマイクロバスで学生や一般ボランティアたち15人と山田町に行き、青少年センターで船越小学校・大槌小学校の再開を支援しました。机やイスの整理をした鈴木さんは「早く子どもたちが学校に通えるようになって欲しい」と話してくれました。



▲日本プレイセラピー協会の湯野貴子代表と本田涼子理事、



▲ 県立大学生ボランティアたち



(日本ユニセフ協会HPより)

▲3日、釜石市内の「心のケア研修」に参加した幼稚園や保育園の先生方

ボランティア募集 幼稚園・学校の支援、清掃や荷物運搬、読み聞かせなどボランティアを募集しています。

申し込み先: 日本ユニセフ協会災害対策岩手事務所 電話 019-681-7561

●高橋千秋外務副大臣が来県、「箱の中の幼稚園」に感心

東北の被災地を訪問している高橋千秋外務副大臣は4月4日に来県し、いわて生協介護福祉センター“あい”を視察されました。同センターでユニセフ災害対策岩手事務所のフィールドマネージャーの安田直史医師から、ユニセフからの緊急支援物資のひとつ「箱の中の幼稚園※」の説明を受け、手にとってご覧になっていました。

「箱の中の幼稚園」を手にする高橋千秋外務副大臣(左)⇒



※「箱の中の学校」は、ユニセフの「早期幼児開発キット(0~6歳の子どもの発達に合わせた37種類の教材や遊び道具)で、今回のユニセフの東日本大震災日本支援の緊急支援物資の一つとして、デンマーク・コペンハーゲンにあるユニセフ物資供給センターから約50人分が届けられたもので、他のユニセフの支援物資と一緒に、いわて生協の介護福祉センター“あい”の倉庫に預けられ各避難所や学校に届けられているものです。

●ユニセフ東京事務所平林国彦代表が来県、教育長などと懇談

4月7日、ユニセフ東京事務所の平林国彦代表が来県し、岩手フィールドマネージャー安田直史医師、岩手県ユニセフ協会の藤原綾子事務局長を伴って、菅野洋樹岩手県教育長にお会いし、ユニセフの緊急支援や新学期に向けて学用品、震災孤児への対応などについての意見交換し、行政やボランティア団体と協力して岩手の子どもたちのために支援することについて話し合いました。

続いて、平林代表は、岩手日報社を訪ね、三浦宏社長、村田源一郎相談役(岩手県ユニセフ協会会長)、山添勝寛総務局長にお会いし、ユニセフの支援状況について報告しました。

その後、震災直後、釜石に水の支援をした立正佼成会盛岡教会を訪問しました。懇談の中で、新潟中越支援の経験を通して支援に当たっているという青年本部の阿部恵一・三県担当が「微力は無力ではない」とおっしゃったことが心に残りました。

●(株)サンギフト様から東日本大震災緊急募金が届きました

4月13日、(株)サンギフトの千田 稔代表取締役が岩手県ユニセフ協会を来訪し、加藤善正副会長に、この間、同社が集めた東日本大震災緊急募金:698,420円をお届けくださいました。加藤副会長は謝辞を述べるとともに、ユニセフ募金として役立てることを約束しました。(写真・左:千田代表取締役)



東日本大震災緊急募金

郵便局(ゆうちょ銀行)

振替口座:00160-2-372895

口座名義:財団法人日本ユニセフ協会

※通信欄・通信欄に「東日本大震災 K1-030 岩手県」と明記願います。

※手数料はご負担くださいますようお願いいたします。

○ユニセフは物品での支援は受け付けておりませんのでご了承ください。